准教授　**楯岡　求美**　　TATEOKA,　Kumi

1.　略歴

1987 年 4 月　東京大学教養学部文科Ⅲ類入学
1990 年 10 月　第二回ソ連給費留学生としてロシア国立レニングラード大学留学（～1992 年 9 月）
1993 年 3 月　東京大学教養学部教養学科第二地域文化学科（ロシアの文化と社会）卒業
1996 年 3 月　東京大学大学院人文社会系研究科（スラヴ語スラヴ文学）修士課程修了
1996 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科（スラヴ語スラヴ文学）博士課程進学
1999 年 9 月　東京大学大学院人文社会系研究科（スラヴ語スラヴ文学）博士課程単位取得退学
1999 年 10 月　北海道大学スラブ研究センター・COE 講師
2000 年 4 月　神戸大学国際文化学部・講師
2001 年 4 月　神戸大学国際文化学部・助教授
2001 年 8 月　ロシア国立人文大学人文歴史学部（モスクワ）にて研修
（文部省派遣若手在外研修　～2002 年 4 月）
2003 年 1 月　学位・博士（文学）取得
2007 年 4 月　神戸大学大学院国際文化学研究科・准教授
2010 年 8 月　イギリス・ケンブリッジ大学ウルフソン・コレッジおよびロシア国立人文大学人文歴史学部にて研修（神戸大学若手教員長期海外派遣プログラム　～2011 年 4 月）
2016 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科（スラヴ語スラヴ文学）准教授

2.　主な研究活動

a　専門分野

ロシア・ソ連の文学、ロシア・ソ連文化論、ロシア・ソ連演劇史。

b　研究課題

主としてロシア語による文学・演劇・映画を素材として、芸術表現の特質と可能性、時代や社会による価値体系の変容や人間関係の諸相を明らかにすることを目的とする。

c　概要と自己評価

ロシア・ソ連では、文学と共に演劇・映画がメディアとしても重要な社会的機能を担っている。これらのジャンルの創作が歴史的および現在の社会においてどのように受容されているのかを、笑い話や起源などの民衆文化も含め、現地調査と文献調査を平行して研究を行っている。近年の研究関心は翻案研究とロシア語をドミナントとするソ連文化形成との二つの領域にわたる。

ポストモダン以降の文化潮流においては、狭義の意味での作品のオリジナリティを論じることは難しくなっている。個別創作者の独創性や表現力がどのように評価されうるのかを、文学と演劇・映画といった異なるメディアによる翻案作品を比較検証する。感情など視覚化言語化の難しいものが、メディアの変更にともない、どのようなメカニズムで情報が付与され／欠落する者に注目することで、演劇や文学それぞれのジャンル固有の表現特性の有無について考察を行っている。

さらに、ロシア連邦外の旧ソ連圏におけるロシア語文化の形成プロセスの再検討とポストソ連期における継承と離反の現況についての研究を進めている。特にコーカサス地域出身の創作者の活動に注目し、従来は画一的に中心から周縁へと一方的に伝達されたと考えられてきたソ連文化の多様性について再検討することを目指し、現地調査および文献調査をベースとした研究を行っている。

これらの成果は国内外の研究会、シンポジウムの企画し、参加することで国際的に専門の研究者間での交流を図り、論文及び共著書等において刊行している。現場で活動する創作者とも研究成果の共有をはかるために上映や講演の企画を実施し、学生にも授業等の場において成果を還元している。

d　主要業績

(1)　共著・論文等

a. 編共著

沼野充義・望月哲男・池田嘉郎（編集代表）・楯岡求美・井上まどか・金山浩司・熊野谷葉子・鴻野わか菜・坂庭淳史・乗松亨平（編集委員）、『ロシア文化事典』、丸善出版、2019、全 886 頁、ISBN 978-4-621-30413-6（編集担当：「映画」の章、「舞台芸術」の章、執筆担当項目：「映画」章扉コラム、「舞台芸術」章扉コラム、「ドラマ劇場」、

「劇作家オストロフスキー」「芸術家たちの同盟組織」（以上、単著）、「娯楽映画」（ヴァレリー・グレチュコと共著）

b. 共著

定延利之編著『限界芸術「面白い話」による音声言語・オラリティの研究』、ひつじ書房、2018.3、楯岡求美「ロシアの笑い話におけるエスニック・ステレオタイプ」（pp.406-437）担当

c. 論文

楯岡求美、「歴史パノラマとしてのマヤコフスキー《ミステリヤ・ブッフ》」、『SLAVISTIKA』、33-34、19-34 頁、2019.3

d. 評論等

楯岡求美、書評「分在する私」中村唯史、大平陽一編著『自叙の迷宮：近代ロシア文化における自自伝的言説』、水声社、2018」『図書新聞』3244 号、2018.6

楯岡求美、劇評「誰でもアリノママに自分らしく生きたい」（演劇集団円・岸田今日子記念　円・こどもステージ No.37『はだかナおうさま』2018.12.21-27）、『シアターカイ月刊批評通信 102 号』、2019.3、p.7

楯岡求美、劇評「豊かな感性を育てる学校教育の基盤は、文学と 演劇（サンクトペテルブルグ市立中等教育学校ヴンデルキンド演劇部来日公演）」、『シアターχ（カイ）月刊批評通信 106 号』、2019.7、pp.6-7

⑵　発表・講演

a. 学会・研究会発表

Kumi TATEOKA, “Georges Pitoeff (Геворг Питоян) and Modernism in Theatre,” International Conference “The Dynamics of Cultural Processes between Center and Periphery”, Ivane Javakhishvili Tbilisi State University, 6–7 September 2019.

Kumi TATEOKA, "Acceptance and influence of Soviet movies in postwar Japan", The 10th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies, June 29—30, 2019, at The University of Tokyo.

Kumi Tateoka, Образ персонажа из отдаленной по духу культуры в пьесе Евгения Гришковца "Как я съел собаку"　(2002)（エヴゲニー・グリシュコヴェツの戯曲『私はどうして犬を食べたか』における文化的異質性と登場人物の造形）, Caucasus: Cross-Cultural Cross-Roads, Russia-Armenia University. 4-5 September 2019.

Kumi Tateoka, Cultural Studies: Emic-Etic Correlation in Research and Teaching, 9-10 September 2018, Tbilisi State University. Round-table discussion “Multiculturalism and the Soviet Regime”, Cultural Studies: Emic-Etic Correlation in Research and Teaching, 9-10 September 2018, Tbilisi State University.

b. 講演等

楯岡求美、劇団地点（劇場実験）「秋元松代研究～台詞の音楽性と新たな『語り』」（2018 年度共同研究プロジェクト公募研究Ⅱ）、京都芸術劇場 studio21（京都造形芸術大学）、2019.3.9

⑶　共同研究

科学研究費基盤 B（18H00655）「ロシアとコーカサス諸地域の文化接触：受容と変容と離反のダイナミズム」（2018-2021）研究代表

科学研究費基盤 B（16H05657）「オーラルヒストリーによる旧ソ連ロシア語系住民の口頭言語と対ソ・対露認識の研究」（研究代表：柳田賢二・東北大学教授、2016-2019）：分担者

国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））「多言語多文化芸術運動としてのトビリシ・アヴァンギャルドの歴史的資料調査と考察」（研究代表：増本浩子・神戸大学教授、2019-21）：分担者

3.　主な社会活動

⑴　学会

日本ロシア文学会、理事、2016.10～2018.10、国際交流委員長、2016.10～現在